



声で考える

校長 夏見 隆晴

卒業生を送り出す季節となり、どのような「はなむけ」の言葉を贈ればよいかと思索しながら、「考える人間になろう」ではどうだろう、などという閃きが頭の隅に浮かんできました。でも、多くの人にとって「考える」ということは大変に難しい作業であり、何よりもわたし自身が「考える」、殊に「深く考える」などということは苦手なことだし、これは払い下げだなどと、否定的な方向へと頭の中は動いていました。でも待てよ、校長として話をする時は、話しながら少しは考えているのではないか、との思いに至りました。

そういえば、外山滋比古先生も『思考の整理学』で「声を出してみると、頭が違った働きをするのかもしれない。・・・声で考えるのは、現代人においても決して見捨てたことではなかろう。」と述べておられます。この『野ばら』に載せる原稿も、書く時は黙って書きますが、声を出して読み返してみると、訂正すべき箇所が出てきます。論理的におかしい所もあり訂正して、皆さんの前で恥をかくことも多少は減り、読んでくださる人たちに、私の考えていることを理解してもらえぬ助けとなり、私の恥も小さくてすむのです。

そういえばイエス・キリストの教えも、声で伝えられました。しかも、イエス・キリストの場合は、理解することの鈍い弟子や多くの群衆に向かって、何度も何度も表現を変えながら、忍耐強くその教えをご自身の声を持って伝えてくださったのです。わたし自身聖書を開いて読む時はまず何度も黙読しますが、その後は声に出して読みなおします。すると、理解できていなかったと感じるところが出てきます。「みことば朝礼」での聖書の教えを伝える場合にも、何度も「声で考える」という作業を経るよう努めています。

しかし「声で考える」ということは、過去の知識にのみ頼るというわけにはいかないのです。多くの人たちから得た知識をそのまま伝えるのなら、それは目の作業ということになります。目で正確に読みその内容はこれであったと言う時には、過去の出来事として扱いますが、「声で考える」という作業の結果を他者に伝える場合は、「わたしは・・・と考える」と正直に伝え、聴いてくれる人々の感想や時には批判さえも甘受する必要があるのです。これこそ、私たちが「対話」と呼んでいるもののあり方であり、本質なのです。

皆さんのこれからの人生において、出来る限り多くの人たちと「対話」を交わす機会を持って欲しいというのが、今回の願いであります。面と向かって話をするということは、お互いに誤解を少なくすることができます。それに対話には、かならず声の調子や顔の表情が伴います。これらは、言葉以上に真実を告げてくれるので、お互いの間の理解をより以上に助けてくれます。それに、対話を通してお互いをさらけ出した回数が多さが、生涯にわたって友と呼ぶことのできる大切な存在をつくるのだと、今は実感しております。

2月17日にX線天文衛星「ひとみ」が打ち上げられました。意味は違いますが光栄に思います。長い人生色々ありますが、人生には思いも寄らない『岐路』にたたされる時が多々あると感じています。4年前に沖縄への移住を決めた時もその一つです。人生を変える分かれ道を選択する時は高校の恩師からおられた『Yの字判断』という言葉が常に私の脳裏のどこかにありました。

文字通り『一方を選ぶと、もう片方の道は捨てることになる。だから、よく考え、想像し、情報を集め、計画を立て、納得のいく方を後悔しないように選びなさい。』というものです。

25、6歳の頃のことです。順風満帆に大学を卒業し、企業で1つの大きな仕事を達成した数週間後、自分の前に突然厚い壁が立ちました。それは、今後この会社で何を目標とするか、一生この会社に骨を埋められるのか、他に自分は何かできないのか・・・。

方向を見失ってしまったのです。もちろんこの会社で人の役に立つものづくりを念頭に、夜昼無く働いて来ましたが、将来の目標も計画も立たぬまま退職届けを提出しました。

しかし、考えが甘かったのです。今は亡き当時の社長は、『本当にやりたいことが決まってから退社しなさい。』また、『多少の支援をしますから、やりたいことを言ってみなさい。』とまで言ってくださり、本当に頭が下がる思いと同時に、社長の言うとおりでした。

答が出ない日々は本当に耐え難いものです。自分が生きる理由を探すために、毎日本を読み続けました。その時初めて、自分の過去と未来について真剣に向き合った気がします。

そんな時、ある本屋で私の人生を変える1冊の本に出会いました。内容は『小惑星が地球に衝突し、地球が滅亡する。』といったものです。理由はどうであれ、何らかの理由でそうなる可能性は無いとはいえない。焦りました。第2の地球を作るか探さないか、子孫を守ることができない自分が生きた証すら無くなると考え、第2の地球を作る研究機関がないか、模索しました。

すると、アメリカのアリゾナ州に『バイオスフィア』という地球環境を再現する実験施設を見つけ、胸が高鳴ったことを覚えています。

しかし、このような研究に携わりたいと思いつつも、もはや手が届かないことに気づき、どうしたら地球のために、自分が活かされるかを考えました。そして、ついに見つけたのです。それは、地球に関心を持ち、地球や生物のために力を尽くそうと考えている生徒達に教諭として何らかの影響を与えられることが出来たら、私の一生の仕事として頑張れると思えたのです。

現在、中学3年生の理科の教科書に『バイオスフィア2』の写真が掲載しています。この写真で私の考えは確かなものとなりました。私達教諭の言葉や生き方が、生徒のみなさんの心にとまり、次世代の若者に一言でも受け継がれたらどんなに素晴らしいことでしょう。

もしあの時、退職願を提出して、前向きに考える日々を送らなかつたら、あの時1冊の本を手にとらなかつたら、あの時、沖縄に移住を決意していなかつたら、今ここで教鞭をとってはいなかつたと思います。

沖縄の大空のもと、成長した卒業生の背中を見送る仕事に就けたことを、とても幸せに感じます。

今までの私の『Yの字判断』は辛い物ばかりでしたが、長期と短期で目指せる目標を設定し、向上心を持って努力を続けられれば、神様のお導きと共に大きな喜びへと向かっていくと信じています。

巣立ってゆく卒業生の皆さんにも様々な困難が立ちまはるかもしれませんが、どうぞ『Yの時判断』を胸に、様々な視点から解決策を見だし、強く生き、幸せを感じて欲しいと願っています。

第10期生の皆さん ご卒業おめでとうございます。

そして在校生のみなさん、来年度からも心新たに頑張ってください。

3月の予定



日・曜日	行事計画
1日(火)	卒業式
2日(水)	職員会議 ※完全下校16:30
3日(木)	答案返却日
5日(土)	授業 PUP□ 武道大会(中3、高1)
7日(月)	高1、高2駿台マーク模試
12日(土)	授業
18日(金)	修了式 大清掃 生徒会レク
19日(土)	高校後期入試
21日(月)	高校1・2年生春期勉強合宿 ~25日(金)
30日(水)	新入生オリエンテーション

☆第54回全沖縄児童生徒書き初め展

- 金賞 外間 栄美さん (中3)
- 金賞 外間 光さん (中3)
- 銀賞 外間 玲美さん (中1)
- 銅賞 高山 七海さん (中3)
- 銅賞 平川 真生乃さん (中3)



2月14日に那覇市立開南小学校にて表彰式が行われました。学校表彰は修了式の日に予定しています。これからのさらに高い目標に向けてのチャレンジを期待しています。

おめでとうございます！！

生徒の活躍！



☆第6回日本バッハコンクール全国大会

中学生部門Aコース「銀賞」、「ベスト賞」受賞

上地 美弥妃 さん (中1)

12月27日に沖縄県立芸術大学にて行われました、沖縄地区大会中学生部門Aコースでの「優秀賞」という成果に引き続き、2月13日の東京都王子ホールでの全国大会では、「銀賞」「ベスト賞」に輝きました。これからのますますの活躍を応援しています。

おめでとうございます！！

☆平成27年度JA共済全国小中学生書道・交通安全ポスター沖縄県コンクール

書道 半紙の部 優良賞 外間 栄美さん (中3)

条幅の部 佳作 外間 栄美さん (中3)

外間 玲美さん (中1)

おめでとうございます！！



☆第27回沖縄県高等学校書道展

奨励賞 金城 単玖くん (高1)

学校表彰を2月12日の全体朝礼で行いました。

おめでとうございます！！

